

「かながわ人づくりコラボ2009」の実施結果概要

1. 開催の趣旨

平成19年に策定した「かながわ教育ビジョン」の推進に向け、「かながわ人づくりコラボ」を開催し、県民との論議を通じて、人づくりにかかわる各主体との協働・連携の拡大を進めるための、今後の方向性を明らかにし、実効性のある教育政策に資する。



2. 開催の状況

- (1) 開催日時： 平成21年11月28日（土） 12:45～16:30
開催場所： 海老名市文化会館 大ホール
- (2) テーマ： 「心ふれあう学びの推進 ～「交流」と「体験」の充実をめざして～」
- (3) 内容： ◇ 講演「スポーツを通じた人づくり ～相手を認め自分が育つ～」
◇ 人づくりの実践紹介「協働・連携による人づくりの現場から」
海老名市の人づくり～ひびきあう教育～
株式会社リコーの人づくり～青少年の健全育成への取組み～
◇ 教育論議「神奈川から発信する人づくり」
- (4) 参加者数： 468名

3. 講演「スポーツを通じた人づくり ～相手を認め自分が育つ～」

(東海大学体育学部長 山下 泰裕 氏)



これまでのご自身の経験を踏まえながら、スポーツから人生に必要な多くのことを学ぶことができることを話された。

まず、小学4年生から柔道を始め、中学生時代からオリンピックで金メダルを獲得するまでの間に柔道を通じてすばらしい恩師に巡り会い、「道」や人づくりについて多くのことを学んだことや、そ

の後のご自身が指導者として築き上げた経験も踏まえ、教育とは一人ひとりのすばらしいところを見つけ出して光を当てることであり、指導者は一人ひとりを多くの方向からしっかりと見てよい点を見つけること、相手にあって自分にはないものを見つけることが大切であると話された。

さらに、過去を振り返るより、今をひたむきに生きることの大切さや、夢を持ち続け実現を願うことが大きな力となることを説かれ、大人は子どもたちに行動で模範を示すと同時に生きることのすばらしさを伝えることが大切であると語られた。

また、スポーツは心身の健康を増進するだけでなく、仲間と力を合わせることで、戦う相手を尊敬すること、ルールを守ること、目標を目指し努力すること、失敗を恐れずチャレンジすること等の数々のことを通じて人づくりが促進され、そしてこれらの行動が実社会で生かされるようにしていくことがたいへん大切であることを語られた。

その上で、「スポーツを通じたいじめ防止」等、氏が現在実践されている取組みについて紹介され、多くの人たちと連携しながら、これからの人づくりを進めていくことを述べられた。

4. 人づくりの実践紹介

「協働・連携による人づくりの現場から」

教育ビジョンの重要な柱である「協働・連携による人づくり」の実践について、2つの取組みが紹介された。

(1) 市町村教育委員会の取組み

「海老名市の人づくり ～ひびきあう教育～」

(海老名市教育委員会 学校教育課教育指導担当課長

飛矢崎 義基 氏)

海老名市教育委員会の「ひびきあう教育」についての紹介があった。海老名市では「ひびきあう教育の理念のもとにめざす21世紀の子ども像」として、①自分を誇れる子 ②感性と知性をみがく子 ③共感できる心をもった子 ④わがまち海老名を語れる子 を目指した教育活動を展開している。

実践紹介として、海老名市立社家小学校が取り組んできた「自らコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」を主題とした教育活動の実践の中から、アメリカンスクール（シャーリー・ランナム校）との異校種での学校間交流が紹介された。

(2) 企業の取組み

「株式会社リコーの人づくり ～青少年の健全育成への取組み～」

(株式会社リコー CSR室シニアスペシャリスト

畠山 礼光 氏)

企業の社会貢献活動の一環として、(株)リコーが行っている取組みについて紹介があった。

リコーグループでは、「人と地球を大切に作る“心と行動”を育む」を基本テーマに、「青少年の健全育成」を重点分野として早くから活動を進めており、今回はその中から「リコー・サイエンスキャラバン」「市村自然塾」という2つの取組みについて紹介された。

この中では、子どもたちに“教える”のではなく、子どもたちが科学の原理に興味を持ち、また、農作業等のさまざまな体験を通じて自然とふれあうことを通じて、“自ら学ぶ”ことができる環境を提供する取組みについて紹介された。



5. 教育論議

「神奈川から発信する人づくり」

講演や実践紹介を踏まえ、宮崎緑教育委員をコーディネーターとして、参加者とともにこれからの神奈川の教育のあるべき姿についての論議が行われた。

(1) かながわ人づくり推進ネットワークの取組みについて

(かながわ人づくり推進ネットワーク 高木 展郎 幹事長)

「みんなで進めよう！かながわ人づくりコラボ」のスローガンのもと、多くの主体の参加と積極的な活動による人づくりの取組みが今後ますます重要になること、ネットワークの活動をより充実させるためホームページ等を活用して活動を促進していくこと等が表明された。



(2) 神奈川県らしい人づくりのあり方について

会場からは、

- ・ つながりは「人と人」が基本である。学校に対する支援を進めてほしい。
- ・ 今後の人づくりには、学校と地域・家庭とのつながりが大切、どのようにつなげるかが重要である。
- ・ スポーツを通じた人づくりのモデルづくりに取り組んでみたい。
- ・ かながわ人づくり推進ネットワークの活動に期待する。
- ・ 現状の理解に努め、積極的な取り組みや対応を期待する。

といった意見が出された。

その上で、今後、人づくりを推進するためには、「かながわ教育ビジョン」の一層の推進やネットワークの充実が大切になることから、かながわ人づくり推進ネットワークの活動と現場を支える行政の取り組みへ期待のうちに論議を終えた。

6. フォーラムのまとめに向けて

(神奈川県教育委員会 平出 彦仁 委員長)

- 平出教育委員長から、全体の論議を総括し、「かながわ教育ビジョン」の着実な推進に向け、企業・家庭・学校・地域が連携し、学校教育だけでなく生涯学習にも取り組んでいくこと、各主体が課題を明確にしていくこと、県教育委員会として各市町村との交流を深めることが必要であることが表明された。

